

丹沢ボラネット瓦版

2023年11月号 No.116



表丹沢林道(秦野市)の絶景ポイント！

令和5年度丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・交流会

去る10月21日、コロナ禍で令和元年度を最後に開催できていなかった講演会・交流会を開催しました。

ボラネット各団体や、かながわ森林インストラクターの会、神奈川県フィールドスタッフの皆様など35名が、会場の自然環境保全センターレクチャールームに集まりました。

第1部交流会

小林代表のあいさつに続いて、第1部の交流会では、山口副代表の進行により、自己紹介を兼ねて参加したボラネットの各団体から1分間ずつの団体紹介を行い、続いて2団体から、詳しく活動報告がありました。

1団体目は、NPO 法人 丹沢自然学校の五十嵐さんです。丹沢自然学校の発足の経緯や思い、エコツアーや定点観察を中心としたこれまでの活動実績について、設立趣旨書や写真をまじえてご報告いただきました。



丹沢自然学校 五十嵐さんの報告

2団体目は、丹沢環境推進会議の小林さんです。**発災 100 年を迎えた**

関東大震災による崩壊が沢をせき止めて生まれた震生湖（秦野市）近くの慰霊碑を紹介、南秦野尋常小学校（当時）の児童2名が今も行方不明であることや、現在の沢の状況などを地形図や現地の写真でご説明いただき、同会議で取り組んでいる丹沢検定の紹介もありました。関東大震災は人々の生命・財産に対する甚大な被害は忘れられない点ですが、丹沢の成り立ちや現在の状況を考えるうえでも、非常に大きな自然現象であることを改めて思い起こしました。



震生湖を生んだ大陥没 小林さんの報告

最後に、ボラネット以外からご参加いただいた、神奈川フィールドスタッフとかながわ森林インストラクターの会の紹介がありました。神奈川フィールドスタッフについては、自然環境保全センターから制度の概要と、それぞれが個人や団体メンバーとして様々な場面で活動されている旨の説明があり、かながわ森林イ

ンストラクターの会からは久保さんから、会の活動や県の委員会への参画についても紹介があり、12月に開催予定の観察会のご案内もありました。

今日の交流会を機会に、ボラネットへの加入や各団体・個人の交流が進むきっかけとなることが期待される第1部でした。

2部 講演会

2部では青木雄司先生を講師に、「丹沢の哺乳類について」をテーマにご講演いただきました。

青木先生は、令和元年度まで、長年に渡り、神奈川県公園協会にお勤めになり、丹沢大山総合調査を始めとした、丹沢大山の自然環境保全に係る様々な調査等に関わってこられました。現在は、神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員、青山学院大学 非常勤講師、日本自然保護協会の自然観察指導員講師などとしても活躍をされています。ビクターセンターで普及啓発や調査等をご担当されていたことからフィールドなどでお会いしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

(主な著書)

- 共著『丹沢自然ハンドブック』自由国民社,1997
- 共著『かながわの自然図鑑〈3〉哺乳類』有隣堂,2003
- 共著『身近な自然を見つめる目』日本自然保護協会,2006
- 共著『鳥との共存を目指して』中央法規,2010
- 共著『野生動物インタープリター』日本エコツーリズムセンター,2014



講師紹介

青木先生のお話

講演では、イントロに続いて、絶滅した種類、丹沢大山自然再生計画(特にニホンジカと外来種)、レッドデータ記載種などについて、写真、動画とユーモアを交えて、お話をいただきました。

以下、失礼を承知で先生のお話から印象に残った点などを記載します。筆

者の捉え方、解釈で記載している点、ご容赦ください。

○イントロ

- ・神奈川県ではこれまで 78 種の哺乳類が記録。海がありクジラやアザラシなどが記録され種類が多い。
 - ・コウモリ、モグラ、ネズミを中心に、調査が十分とは言えず、これから新たな種が確認される可能性もある。
 - ・ニホンリスはオニグルミを二つに割るが、その後どのように食べる？正解は二つを上下に重ね1つずつ食べる。
- 山で動物を見たら行動をよく観察しよう。

○絶滅種

- ・県内の絶滅種は4種。オオカミ、カワウソ、オコジョ、アシカ。
- ・オオカミは全国的に絶滅したとされる年の 12 年前が県内最後の記録。
- ・日本にはオオカミを信仰する文化があり、清川村など丹沢周辺でも魔除けなどとして、頭骨などを大切に保管している民家がある。かつては病気の際に骨を削って飲んだりしたとのこと。奥多摩の武蔵御嶽神社はオオカミが「狛犬」役。
- ・カワウソの日本最後の記録は四国。県内にも藤沢市瀬郷（おそごう）といった地名もあり、普通に生息していたと思われる。県内にはカワウソの標本が2つ（毛皮と頭骨）。カワウソの毛皮は、大正時代、大変な高値で取引されていた。
- ・オコジョは1例の目撃例のみの記録であり、確かな生息記録なのかを疑問視する意見もある。尾の先が黒いのが特徴。アシカは県内では明治中頃まで。



○丹沢大山自然再生計画（特にシカと外来種について）

- ・シカはもともと平野の動物だったが、平野の開発などで丹沢を中心に分布。箱根や小仏山地でも生息が広がっている。
- ・平成 15 年に第1期の計画ができ管理がスタート、現在第5期目。平成 15 年からの累積捕獲数は 38,220 頭。頭数ではなく密度を指標に管理する計画。

・アライグマは丹沢周辺でも普通に確認されるようになってきた。農作物被害や両生類を中心に生態系への被害が懸念される。三浦半島ではアライグマの捕獲を進めた結果、一度は減少したヤマアカガエルの個体数が増加した事例も。

・クリハラリス(タイワンリス)は、果樹や公園樹木への被害、住宅や電線への被害などがあるほか、在来種への影響も懸念される。県が防除計画を作る作業を進めている。県西部への分布拡大を防ぐ必要がある。毎年数千頭を捕獲している。

○レッドデータ記載種

・落葉した森林で、枝葉の部分にモサモサしたのが見えたらクマ棚かも。クマが木登りして餌を食べた痕跡。

・樹皮を剥ぐこともあり(動画紹介)、口と手で一生懸命皮を剥ぎ、内側を歯で削りながら舐めている。林業的には大きな被害。

・厚木市郷土資料館収蔵の県内唯一の骨格標本は、清川村で交通事故に遭った個体を青木先生が運んだもの。



子クマに餌をあげる人がいる

・今年は全国的にも県内でもクマの出没情報が目立つ。県のホームページで県内情報は公表されているので確認を。
(「ツキノワグマ情報について」神奈川県庁ホームページ)(右の二次元バーコードから)



・クマに会わないために、クマ鈴やラジオなどで人間の存在を知らせることは大切だが、あまり気にしないクマも増えているよう。

このほか、ヤマネ、カヤネズミ、カワネズミ、ヒメヒミズ、キクガシラコウモリなどについても説明があり、楽しいお話にあっという間の1時間でした。

また、質疑応答でのやり取りでは以下のようなお話がありました。

- ・クマに餌をあげる人が今でもいる。野生動物との接し方を伝え続ける必要あり。
- ・生物を守る取り組みはとても難しい。それぞれ環境や対象種などが異なり、ある地域の成功例を別の生物や現場に適用できず、それぞれ考えないといけない。
- ・保全を考えるうえでも(そうでなくても)、何がどこにいるのかという、基礎的な情

報を知るためには、正確な記録、特に標本や写真が重要。フィールドなどで動物の死体を見つけたら、拾うか(笑)、スケールを添えて写真を撮って博物館などに報告して(届けて)ほしい。

※死体の取り扱いには衛生面での注意が必要。

※カモシカ、ヤマネは拾得にあたり文化財保護法関係の届出が必要。

閉会のあいさつでは、小野副代表が、活動地の水田で見られるカヤネズミの巣について触れ、また、今後の団体間の交流に期待して会を閉じました。



クマ剥ぎの様子に釘付け！

丹沢大山ボランティアネットワーク講演会アンケート集計結果

1 今回の講演会・交流会の満足度を教えてください。

大変満足 77% やや満足 17% やや満足していない 3%(交流会)

2 1のように感じた理由

(講演会)オオカミのこと、クマの生態など動画や写真を交え、これまで知らなかったことを知ることができた など。

(交流会)他の団体の保全活動を知ることが出来てよかった。震生湖の話が参考になった。団体名簿が共有されるとよかった、など。

丹沢大山ボランティアネットワーク団体からの投稿

県内初の特認認定の「どぶろく」販売開始

NPO 法人 四十八瀬川自然村

秦野市で保全活動をしている当会が運営する農家レストラン、「秦野どぶろく家」にて、丹沢の恵み、日本一の名水で「どぶろく」を仕込み、いよいよ登山者様に提供を始めます。

営業時間は土日の午後1時から5時です。

持ち帰りを希望の方は、量り売りの為、ペットボトルなど持参ください。

予約、問い合わせ 小野 070-6576-2134

※「秦野どぶろく家」は右上の二次元バーコードを参照。



2023・秋 環境登山パート2 報告

神奈川県山岳連盟・自然保護委員会

10月22日(日) 晴れ 参加者18名 一般参加者 ご夫婦2名、親子3名、1名(男)、青稜クラブ(相模原)3名、SC 丹沢秦野(トレランチーム)3名、JMSCA 自然保護委員会1名、岳連・自然保護委員会5名

コース 菩提峠駐車場 9:30～ヤマトタケルの足跡 10:30～植樹活動 11:00～昼食・ヤマトタケルの足跡 12:00～菩提峠駐車場 13:00

標高差 340m、往復2km。



報告 7:44 発ヤビツ峠行きバス、増発(先頭付近に並べた)は来たけれど 8 時 07 分発となり、菩提峠集合時間に間に合うかと…の状況になった。ヤビツ峠(8:42 着～8:48 発)から歩き出すと、一度ヤビツ峠に帰りのバス時刻をスマホで写しに戻って、ほどなくして車が止まった。県岳連自然保護委員長の S さんでした。同乗する。菩提峠(9:05 着)で下車、受付と委員長挨拶、司会からの作業概要説明、参加者の自己紹介、受領品と資材の荷分け(特に運ばず)、ラジオ体操後に 9:30 頃に出発した。ロープ場も一部ある。真鶴半島、初島、伊豆大島も見える。江の島はもっと左



の方で見えない。1 回休みを入れてヤマトタケルの足跡に着く(10:27)。途中で、キク、アザミ、トリカブトを見た(下山時にセンブリらしき植物を写している参加者が居た)。M さんは大きいのはフジアザミと言っていた。ザックを置いて、苗とネットとポールを少し上の斜面に運んでくれた。運搬方は委員会の若手他が担当。都岳連から O さんも参加、小学生も居て総勢 18 名ほど。植え方の見本を F さんと I がすることになり、S さんのやり方の声が飛ぶのに従う。参加者がそれぞれに散らばって植えた。見本を含めて 2 種類 5～6 本ほどを植えた。M さんは他の女性と組んで植えた。11 時 40 分頃から足跡の前で昼食。記念写真を撮って 12 時 20 分ころ下山開始。13 時 00 分に菩提峠に戻り、苗包みや資材包装材の片付け、資材置き場小屋に収納、解散式などの後、13 時 18 分にまた S さんに同乗させてもらい秦野駅まで戻った(14:07)。

『植えながら、他の木や草などに負けずに育てばいいなと思い、それを見に来られればなお良いと思った』、感想です。I 塚より。

相模原の青稜クラブ I 塚さんの報告と感想を載せさせていただきました。I 塚さんは、この『環境登山』を開始したところから、ご参加いただいております。

岳連・自然保護委員会 伊藤篤子